

令和 6 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、分裂した極渦の一部がオホーツク海付近で持続し、極渦を回って短い周期で上空の気圧の谷が通過し、通過後には西高東低の気圧配置が強まった。このため、日本付近には寒気が流れ込みやすく、北・東・西日本では旬平均気温が低く、北日本日本海側で降雪量が多かった。西高東低の気圧配置が強まった 2 日には西日本日本海側でも降雪があり、4 日には北・東日本日本海側で大雪となった所もあった。また、5 日から 6 日にかけては南岸低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美や東日本太平洋側では大雨となった所があった。8 日には南岸低気圧の影響で関東地方の平野部でも降雪があった。

中旬の天気は、全国的に数日の周期で変化したが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった西日本日本海側と東日本太平洋側で旬間日照時間がかなり多く、東日本日本海側、西日本太平洋側と沖縄・奄美で旬間日照時間が多かった。また、低気圧や前線の影響で、東日本日本海側と東日本太平洋側では旬降水量が多かった。12 日から 13 日にかけてと、18 日から 20 日にかけては、発達した低気圧や寒気の影響で北・東・西日本では荒れた天気となった所があった。旬平均気温は、全国的に平年並だった。

下旬の天気は、全国的に数日の周期で変化した。北日本日本海側、北日本太平洋側と沖縄・奄美では高気圧に覆われやすかったため、旬間日照時間は多かったが、29 日に低気圧の影響で大雨となった所があったため、北日本太平洋側の旬降水量は多かった。一方、東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすく、湿った空気が流れ込んで大雨となった所もあったため、旬降水量は西日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。特に、西日本日本海側では旬降水量平年比が 268% となり、1946 年の統計開始以降で 3 月下旬として 1 位の多雨となった。また、旬間日照時間は東・西日本日本海側と東・西日本太平洋側で少なかった。期間のはじめは西高東低の気圧配置となり、寒気が流れ込みやすかったが、その後は暖かい空気に覆われやすく、期間の中頃は沖縄・奄美から西日本を中心に、期間の終わりは全国的に暖かい空気が流れ込んで気温が平年を大きく上回る日もあったため、旬平均気温は、西日本でかなり高く、北・東日本と沖縄・奄美で高かった。

【3 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 3 ポイント高い 87% で、明後日予報は例年値より 4 ポイント高い 85% でした。地方別の適中率では、明日予報は、東北地方では例年値を下回りましたが、それ以外の各地方では例年値を上回りました。また、明後日予報は、東北地方と沖縄地方で例年値を下回りましたが、それ以外の各地方では例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃ 小さい 1.4℃ で、全ての地方で例年値と同じか例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃ 小さい 1.2℃ で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の天気予報の利用にあたって】

5月は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。また、上空に寒気が流れ込むと大気の状態が不安定となり、穏やかな晴れの天気から一転して雷や突風・竜巻、局地的な大雨、降ひょうとなることがあります。屋外での活動を計画している場合は、天気予報とともに最新の気象情報や早期注意情報、注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えてください。